

## アジャリの森 津之江北

ぶにやま いなりじんじや  
ここ歩人山 稲荷神社の一带には津之江南遺跡が広がっています。

津之江小学校付近の発掘調査では約 2 万年前の後期旧石器時代のキャンプ跡をはじめ、弥生時代から鎌倉時代にわたる集落や墓地が確認され、この地域の長い歴史を物語っています。

今から 1200 年前に書かれた歴史書「日本書記」には、あんかんてんのう安閑天皇元年（534 年）のこことして、当時三島を治めていた三嶋県主いしば飯粒が天皇に良田 40 町を献上、その田を耕すために大河内直味張おおしこうちのあたいあじはりという河内の豪族が春・秋それぞれ 5 百人の農民を遣わすことになったと記されています。稲荷神社一带が「アジャリの森」と呼ばれ、津之江西方に「五百住（よすみ）」という地名がのこるのには、おそらくこの伝承によるのでしょう。

また津之江にはもう一つ「筑紫津神社」つくしつがあります。

平安時代の歌謡「催馬楽（さいばら）」の「灘の海」に「難波の海 難波の海 漕ぎもて上がる 小舟大船 筑紫津までに今少い上れ 山崎までに」とある筑紫津との関連が注目されます。

こうした津之江にまつわる伝承は、津之江一河の港一という地目が示すようにこの地域が淀川水軍に深くかかわり、三島の中心地である北方の嶋上郡衙跡と盛衰を共にしたことを示しています。この小さな鎮守の森には、古い記憶が秘められているのです。

平成 14 年 3 月 高槻市

## アジャリの森

昔はもっと広い森だったようですが、現在はだいぶ縮小され、周りには田畑が広がっています。（最近住宅が次から次へと建ってきました）

古代日本の豪族「大河内味張（おおこうちあじはり）」が、安閑天皇に耕作のために 500 人を献上し、その人々が住んだ土地がアジャリの森がある「五百住（よすみ）」の地名になりました。「アジャリ」とは、「味張（あじはり）」がなまったものなのです。

大坂府の心霊スポット、アジャリの森は歩人山稲荷神社の拝殿裏にあるうっそうとした森で、ただでさえ不気味なのですが……その恐怖に拍車を立てるのが 60 体もの謎の石塔です。

裏には御神木と 60 体の石塔がある。これらは緩照姫、六文字大神、弁財天、白龍大神、白長大神、眼力大神、成功大神、そしてアジャリの森という名前の由来となった味張稲荷大神が祀られている。

アジャリの森で語られる心霊現象としては、霊が現れる、心霊写真が撮れる（オーブが写る）といったものがあります。